

「広沢寺古墳(こうたくじこふん)」

泉香寺山(せんこうじやま)のふもとにある広沢寺の境内にあります。6世紀後半のものと見られ、吉野地区に点在する堂山古墳群と同じ円墳で、おそらく12m前後あったと考えられますが、今はその形は残っていません。

この古墳は、平川地区に残っている古墳の中では一番大きな石室があります。横穴式古墳であり、玄室規模は長さ3.3m、幅2m、高さ2.3m。一枚岩の奥壁、両側壁に用いられた腰石、2枚からなる天井壁には花崗岩と緑色片岩の巨石が用いられており、このあたりで最大級の規模を誇ります。おそらくこのあたりを治めていた首長の墓だと考えられています。

泉香寺山は、他の山とは連ならない独立した山です。ここでは平安時代の経塚(お経を納めたもの)も見つかっており、昔からこの山が特別な場所だったのかもしれない。泉香寺山には他にも古墳の跡が残っています。

住職さんの話によると、この石室はかつて石風呂(むかしのサウナ)として使われたり、戦時中には防空壕として使われたりしたそうです。

石棺の石は、平川地区内に点在しており、石橋として使われているところもあるそうです。広沢寺境内にも石棺の蓋の一部が残っています。これには盃状穴が残っていて、死者の蘇生を願ったものとされています。

ちなみに、この「広沢寺」が建つ山の名前が「泉香寺」山である理由は、この場所にはかつて大内盛見が建立したと言われる禅宗の「泉香寺」というお寺があり、明治時代の改革によって廃寺となったあとに古熊にあった広沢寺が移ったためです。

(参考:「平川文化散歩」「郷土読本ひらかわ」「郷土史ふるさと平川」「広沢寺の看板」)



広沢寺

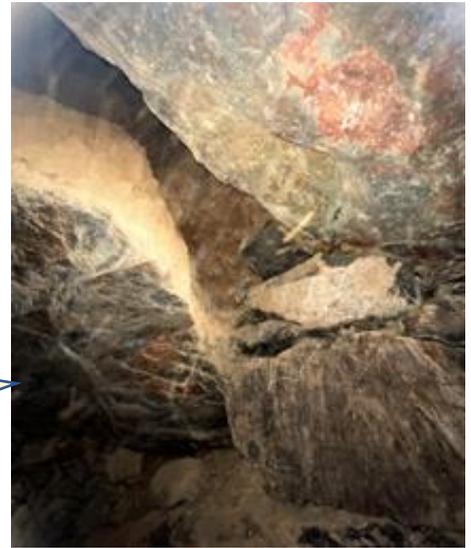
泉香寺山



石室の入り口



石室の内部



石室内部の壁



境内にある石です。葬られた方の復活を願って石でたたいた跡（盃状穴）が残っています。おそらく石棺の一部だということです。

